

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山中学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成27年4月21日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B、理科〕
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

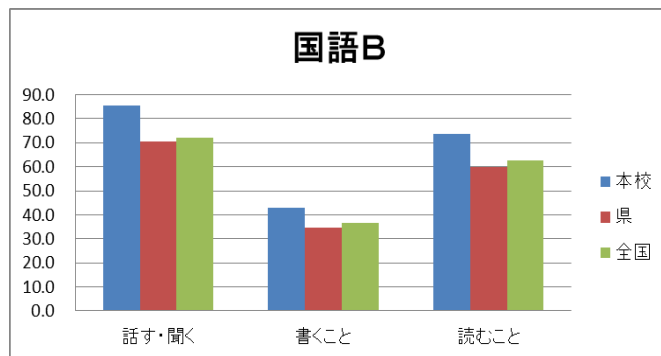
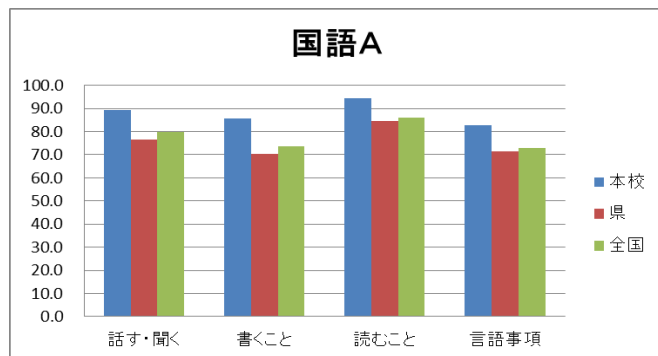
全国学力学習状況調査は中学3年生（小学6年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学（算数）、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結 果

全国正答率との比較



全ての領域で全国平均を上回り、基礎力はほぼ身につけているといえる。無回答の箇所も言語事項の暗記事項以外はなく、テストに向かう姿勢も前向きであり、きちんと受けることができている。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・「話す・聞く」領域では、「必要に応じて質問しながら聞き取る」設問は正答率が高い。しかし、「聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す」設問において、正答率が低い。日ごろから聞き手に分かりやすく話すことを意識させる必要がある。

書 く

・A問題、B問題とも正答率が高く、ほぼ身に付いているといえる。120字程度の文章は全員が抵抗なく書けている。A問題の「伝えたい事項を明確に書く」設問がやや正答率が低い。表現しようとする内容にふさわしい語句を選んで書くように指導する必要がある。

読 む

・A問題、B問題とも正答率が高い。無回答もなく、「読む力」の基礎力は身に付いているといえる。しかし、A問題の「目的に応じて要旨を捉える」設問においてやや正答率が低いので、グラフや表と文章を合わせて読む練習をしていく必要がある。

言語事項

・18問中100%の正答が7問、85.7%の正答が5問であり、高い正答率であり、基礎的事項はほぼ身に付いているといえる。しかし「慣用語」や「品詞名」「手紙の書き方」などが身に付いていない生徒もいる。教科書で学んだことを資料集で知識を深め、学んだ知識を日常生活の場で定着させていく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業をはじめ、ブロック集会や朝の会などで、自分の考えを発表し意見交流する場を数多く設定しています。その際、メモを取りながら聞き取り、意見交流をすることで、話のポイントを押さえています。そうすることで、友だちの意見を聞くことができる、自分の意見を発表などのコミュニケーション能力の習得を目指します。
- 朝の読書や地域のボランティアの方々による読み語りをを行い、多読者を表彰するなど、読書を推進しています。読書に親しむ態度を育てることで、考え方の視野を広げることもちろん、読む力・聞く力を養います。
- 授業においては、めあてを持ち学習し、授業のふり返りを行っています。何を学習するのか、何が理解できたかを明確にさせることで、学習内容の確実な定着を図ります。
- 毎時間の小テストや友愛で実施するテストで、漢字・語彙力の向上を図ります。

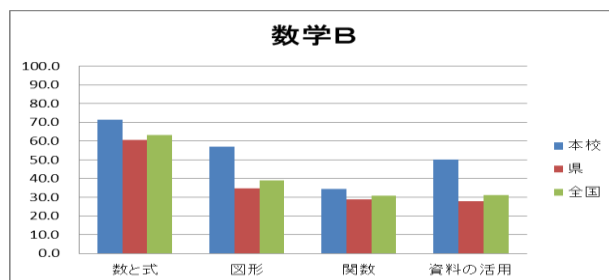
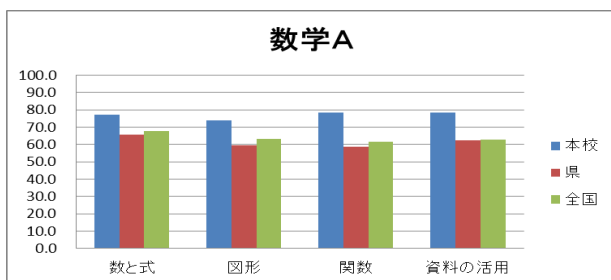
【ご家庭では次のことをお願いします】

- 本や新聞に親しむ機会を増やしてください。本に書かれているいろいろな表現や、著者や登場人物の考えに触れることで、語彙力を高めたり、知識の幅を広げたりすることができます。
- お子さんが日ごろから日記などをつけるのもお勧めです。習慣化すれば「いつ、どこで、何をした」という文章の基本を自然と身に付けることができ、文章力を高めることにつながります。
- 試験では、限られた時間内に、正確に読み取り、指示を守り的確に答えることが必要になります。学習プリントや問題集などを活用して、時間を意識して解く練習もさせてください。

2 数学

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題、活用力を問うB問題とも、どの領域も、問題形式別も全国平均をかなり上回っている。しかし、設問ごとの正答率では全国平均を下回っている問題が2割ある。用語や定理の理解が不十分であるため正答に結びつかない傾向や、理由や方法を適切に記述することができていない傾向は全国同様である。

(2) 成果と課題

数と式

・A問題、B問題とも全国平均をかなり上回っており、A問題の基本計算問題5問は全生徒が正答している。学習内容の確実な習得のため小・中で取り組んできたスキルタイム(友愛)の効果と考える。設問ごとには、分数の乗法逆の問題場面や具体的な事象の場面における数量関係の捉え方について補充指導が必要である。

図形

・図形領域のA問題は、全国平均をかなり上回ったが、「対頂角は等しいことの証明について、正しい記述を選ぶ」問題と「直方体で辺に垂直な面を求める」問題は、全国平均を下回った。正答率が全国平均に近い問題もあり、証明の意義と必要性に加え、図形領域の定義や公式・性質についての理解を補う必要がある。

関数

・関数領域は、A問題は全国平均をかなり上回り、B問題はやや上回った。「二元一次方程式の解の集合が、直線である」ことへの理解、「与えられた式で、比例関係を判断する」見方や考え方の補充指導が必要である。

資料の活用

・A問題、B問題ともに全国平均をかなり上回った。しかし、確率、階級、度数などの用語の意味を正しく理解しておくことや、その求め方や処理の仕方を確実にしておく必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 月曜日のスキルタイム(友愛)では、「すくすくテスト」や単元小テストを活用し、基礎・基本について確実な習熟をめざします。各テストの間違った問題は、解き直しを徹底します。
- 授業では、友だちの考えを聞いたり、自分の考えをまとめたり、他の人に伝えたりする言語活動を多く取り入れ、数学的な見方や考え方を育成し、思考力、活用力を高めます。
- 学習ワークの指導、ノートチェック、学習プリントや家庭学習の課題チェックを丹念に行い、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

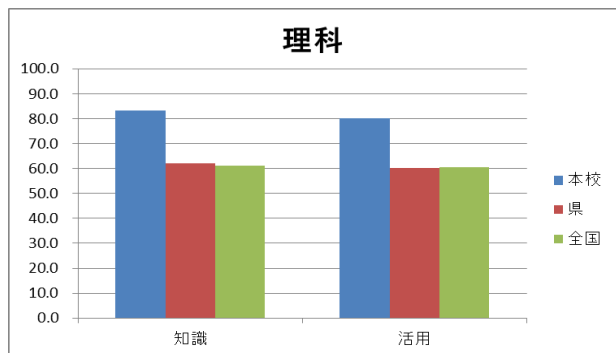
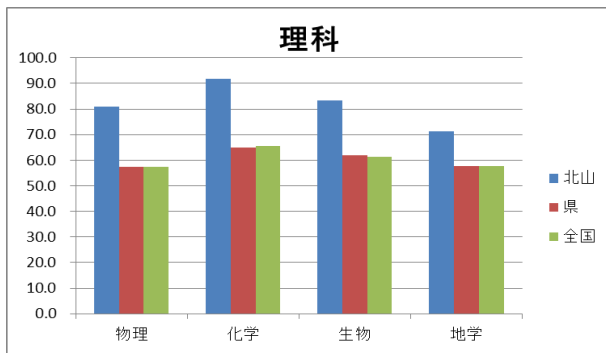
【ご家庭では次のことをお願いします】

- お子さんが今どんな学習しているのか、どのくらい理解できているのか、ノートやワーク、プリント類にも目を通して頂き、宿題で困っていることはないか、テストはどのくらいできているかなどを把握をお願いします。そして、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。
- 算数・数学は積み上げの教科ともいわれるように、らせん階段を上っていくように、既習の学習の上に新しい学習を積み上げていきます。数学好きにするには、「時間はかかったけど自分の力で問題が解けた。」「途中であきらめずに一生懸命考えて自分の答えを出した。」「この前は、間違っただけで今度はできた。」「問題集を全部仕上げた。」という成功体験を積み重ねてほしいと思います。

3 理科

(1) 結果

全国及び県の正答率との比較



基礎的な知識を問う知識問題、活用力を問う活用問題、物理、化学、生物、地学のどの領域も、全国平均・県平均を上回っている。しかし、設問ごとの正答率を見ると、全国平均・県平均を下回っている問題が2問ある。1つは活用の問題で、条件を変えた二つの実験の結果を比較する目的が分からず対照実験を計画できていない、2つめは、風向計の原理や仕組みを捉えて風向を観測する技能を身に付けていないと考えられる。

(2) 成果と課題

物理

・知識問題、活用問題ともに、すべての問題で全国平均・県平均を上回った。しかし、磁石とコイルの相互運動で誘導電流が得られるという知識を活用して磁界の変化を説明する問題では、正答率が低かった。磁界が変化する理由を生徒が説明する際には、根拠を示させ、事実と考えを区別して表現させることが必要である。

化学

・知識問題は全国平均・県平均を上回ったが、活用問題で1問だけ、全国平均・県平均を下回った。条件を変えた二つの実験の結果を比較する目的が分からず対照実験を計画できず、正答率が低かった。課題を解決するために考えられる条件の中から対照となる条件に気付かせ、予想を検証する観察・実験の計画を立てる学習場面を設定することが必要である。

生物

・知識問題、活用問題ともに、すべての問題で全国平均・県平均を上回った。観察・実験の時間を十分に確保し、基礎・基本の補充学習を行っている成果であると思われる。

地学

・活用問題は全国平均・県平均を上回ったが、知識問題で1問だけ、全国平均・県平均を下回った。風向計の原理や仕組みを捉えて風向を観測する技能を身に付けていないと考えられる。天気記号から風向、風力を読み取るための基礎的・基本的な知識を身に付け、風向計の原理や仕組みを理解して、風向を観測する技能を身に付ける学習場面を設定することが必要である。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基礎・基本が身に付くように、学習後はワーク・問題プリント等に取り組ませ、個々の力を伸ばし、弱点を克服するなど、個別学習を行うなど、復習に力を入れます。
- 活用力が身に付くように、学習内容を実際の生活と結び付けて考える時間を設定します。科学的思考力が高まるように、友達の考えを聞いたり、自分の考えをまとめたりする考察の時間を充実させます。

【ご家庭では次のことをおねがいします】

○理科では「科学的に考える力」「観察や実験を行う力」「自然の事物・現象に関する知識」などを身に付けることを目標とした教科です。日頃の生活の中で、自然の事物・現象に興味を持つよう、家庭での会話をしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べています。	100.0	93.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ています。	100.0	75.2
平日、ゲームをするのは1時間以内である。	85.7	42.0
平日、テレビを見る時間は2時間以内である。	57.2	44.2
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。(当てはまる)	28.6	17.0
友達の話や意見を最後まで聞くことができる。(当てはまる)	71.4	54.7

朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。給食も好き嫌いなく、毎日完食できている。実際、学校でも具合が悪くなり、保健室へ行くこともほとんどない。家庭の協力によるものである。

ゲームや携帯電話についても、全国平均より良い結果であったが、平日3時間以上テレビを視聴する生徒もいるようである。

「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ。」「友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」の項目で「当てはまる」と答える生徒が増加し、「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒まで入れると100%となっている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	100.0	35.7
休日2時間以上勉強している。	85.8	41.7
家で、自分で計画を立てて勉強している。	28.6	16.5
家で、授業の予習をしている。	14.3	11.9
家で、授業の復習をしている。	71.4	20.5

学習時間は、平日、休日ともに2時間以上勉強している生徒の割合は、全国平均を上回っている。また、家庭学習で授業の復習をしていると答えている生徒の割合も全国平均を大きく上回っている。

自分で計画を立てて勉強している生徒は、「どちらかといえばしている」は57.1%だが、確実にしている生徒は28.6%であり、また、家庭学習で授業の予習をしている生徒は、14.3%である。毎日時間をかけて学習に取り組んでいるものの、積極的に学習に取り組む姿勢としてはもう一歩である。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学習に対する意欲が向上するよう、毎日「自主学習（自学）」を宿題として出しています。帰りの会で、その日の家庭学習計画（教科や内容、時間等）を立てさせています。時間をかけた、内容の充実した自学ノートを提出する生徒が増えてきています。
- コミュニケーション能力を向上させるために、毎日の朝の会、毎月のブロック集会、委員会活動等の様々な場面で、スピーチ活動（原稿を見ずにスピーチ）を行っています。調査結果でも分かるように、人前での発表に自信を持てるようになってきました。今後も継続していきます。

【ご家庭では次のことをお願いします】

- 「学習の手引き」を配布しています。各教科の授業への取り組み方と、家庭学習の取り組み方が掲載されています。これも参考にされて、毎日家庭学習に取り組むよう、お子さんへのアドバイスをお願いします。
- 家族との会話や地域の人々との交流を通して、子どもたちのコミュニケーション能力が高められ、自分に自信が持てるようになると思います。子どもたちが1つ成長したら、その度に家族みんなで励ましたり褒めたりしてあげてください。